

## 【全体概要】

2018年2月に策定された、超長期ビジョンと長期戦略からなる将来構想 Kwansei Grand Challenge 2039 は、時を移さず中期総合経営計画の策定に入りました。2020年度は、大学執行部（大学全体）および各学校が具体的な実施計画を実施するとともに、それを受けた大学における各学部・研究科もブレークダウンされた具体的な実施計画を実行に移しました。

その一方で、全世界を混乱に陥れた新型コロナウイルスによる影響があり、想定していた実績値を下回る計画がありました。2020年度の主な実績を以下に記しますとともに、各実施計画の詳細な進捗について、長期戦略テーマ別にまとめて記します。

- ・ 世界中に混乱を招いたコロナに伴い、教育の在り方や教職員の就業方法などが大きく変更せざるを得ない状況となりました。このピンチをチャンスに変革すべく、『ポストコロナ検討会議』を新設して、学院の将来や教育・研究の在り方に関する報告を作成しました。その報告内容を参照しながら、中期総合経営計画のPDCAサイクルとして3年に1度実施する「(第1フェーズ) トータルレビュー」を行い、超長期ビジョン・長期戦略の見直しを開始しました。
- ・ SGU 事業において、2019年度実績値をベースとした第2回 SGU 中間評価結果は「A」。S～Dの5段階のうち、学生の海外派遣数、学生の英語力伸長、留学生の受入数および受入環境（寮等）の設備等で高い評価を得ました。
- ・ コロナ禍で国際的な移動が困難な中、これまで培った協定大学との関係のもとに Collaborative Online International Learning (COIL) や Virtual Exchange (VE) と呼ばれるオンラインを活用した新しい国際交流プログラムを開発し、海外の大学生と密に交流する機会を創出しました。
- ・ 大学卒業時に学生が身に付けるべき知識・能力・資質 10 項目からなる「Kwansei コンピテンシー」について、継続的に入学時と卒業時における自己判断調査による伸びを測るなどして、「学生の質の保証」を評価するとともに、三つのポリシー（ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、アドミッション・ポリシー）に基づく教学マネジメントの質を高めます。
- ・ 神戸三田キャンパス 2 学部体制を 5 学部（理・工・生命環境・建築・総合政策学部）体制への再編に向けて、特長ある 4 つの教育研究の具現化を図ると共に、教室を中心とした新棟建設など施設設備の充実に取り組みます。
- ・ 日本 IBM と共同で開発した「AI 活用人材育成プログラム」（全 10 科目）のうち、入門 3 科目を e-Learning 化（完全オンライン）しました。文系・理系関係なく、AI（人工知能）やデータサイエンス関連の知識を持ち、それらを活用して現実の諸問題を解決できる能力を有する「AI 活用人材」の育成を目的とし、2021年4月より、通学や教室定員等制約が解除されて、全学生が受講可能となります。
- ・ 「関西学院大学競技スポーツ局 (Kwansei Gakuin University Athletic Department)」を 2021年4月に創設します。大学の「正課外教育」としてスポーツ活動の安全性・健全性を高める施策、指導者の育成のほか、スポーツを通じた地域貢献等にも取り組みます。

- ・ 文部科学省指定「WWL（ワールド・ワイド・ラーニング）コンソーシアム構築支援事業」における拠点校に採択された高等部にて、SDGs の概念や 17 のゴールを学び、平和を構築するために「AI 活用」「実社会での学び」「海外との交流」をキーワードとした「グローバル探究」科目を開講し、グローバル人材を育成します。

## 【長期戦略テーマ別概要】

### （学士課程教育）

#### <在籍時の学修成果の把握・評価>

長期戦略の主たる目標でもある「学修成果の修得」は、一般的な学位単位での学修成果に加え、留学等の付加的な正課プログラムや正課外教育も含めた広義な教育としても学修成果が修得されると定義している。「学部の区別なく学生が共通に身に付けるべき知識・能力・資質」として 10 のコンピテンシーをまとめた『Kwansei コンピテンシー』を活用して、入学時と卒業時との比較分析を行った。

#### <教育の長期的成果の検証>

卒業後 56 年目まで調査を広げ、「質の高い就労」を実現した在学時の学び等と「真に豊かな人生」との関連性を IR による分析にて進めている。また、企業説明会や個別面談などの従来のキャリア支援だけではなく、新たに起業をめざす「アントレプレナー養成」にも力をいれており、IPO 法人を立ち上げる卒業生も輩出している。

#### <カリキュラムの基本構造の改革>

2018 年度に策定した『Kwansei コンピテンシー』を身に付ける基盤教育の確立をめざしている。スーパーグローバル大学創成支援事業（SGU 事業）にて定めた『ダブルチャレンジ制度（入学した学部等での学びに加え、留学等国際的や他分野を学ぶ副専攻、実社会を経験するハンズオン・ラーニング・プログラム）』を進めるとともに、AI を活用して社会課題を解決に導く AI 活用人材育成プログラム（全 10 科目）において、文理を問わず希望者が全員履修可能となるよう、入門系 3 科目を e-Learning（完全オンライン）化した。

#### <教育分野の再編>

教育分野の大きな再編として、2021 年 4 月からの神戸三田キャンパスにおける理系新設 4 学部（理・工・生命環境・建築学部）と総合政策学部の再編に向け、特長ある 4 つの教育研究（1.地球規模課題に革新を起こす探究、2.国境を越えた学び、3.文系理系や学問分野の境界を越えた学び、4.大学の枠を越えて実社会で起業する学び）を定めた。加えて、受験生へのアプローチを強化した入試広報を継続実施した。

#### <国際化の推進>

SGU 事業により、2023 年度まで構想で定めた目標（協定校への派遣 2,500 人/年、受入 1,500 人/年等）に向かって着実に大学全体の国際化を推し進めている。2020 年度は、コロナにより派遣 228 人・受入 988 人と大幅に減少したが、COIL や VE などプログラムを開発・改修して、新しい国際交流の機会を創出した。

#### <国連等との連携強化>

大学院における副専攻プログラムとしての「国連外交コース」および学部における「国連・外交プログラム」を推進していくことによって、国際公共分野で人類の課題に挑むグローバルリーダーの輩出を目的としている。2020 年度末現在、「国連外交コース」修了者は 19 名であり、「国連・外交プログラム」の第 1 期修了者は 13 名である。

### <正課外教育の推進>

汎用的な能力や価値観等は正課教育だけでなく、スポーツ・文化・芸術活動など様々な活動によって涵養される正課外教育として位置づけている。2020年度は、指導者の育成や、スポーツ活動の安全性・健全性を高める施策を支援する「関西学院大学競技スポーツ局 (KGAD)」を2021年4月に設置すべく、その準備に取り組んだ。

### <教員個人・組織の教育力向上>

学修成果検証など高等教育界の変化に対応するために教員個人や教員組織としての継続的な教育力向上を図る。2020年度は、新任教員研修をはじめとするFD研修の充実やシラバスの第三者チェック等を実施した。

### <ICTによる教育・学修支援>

コロナにより、キャンパスでの対面授業が実施できなかったことから、授業支援ツールの活用が加速度的に進展した。授業支援ツールのサーバ容量拡張に加え、さらなる利便性の向上をめざした改修の検討を行った。

### <対面的なコミュニケーションの促進>

大学図書館やラーニングコモンズなど学生同士が交流する空間を提供することで、『学生の主体的な学修』を支援している。2020年度は、コロナにより満足に開館できない状況であった。

### <学修支援の充実>

より効果的な学修成果の修得をめざし、文章表現力を身に付けさせるため、スタッフから指導や助言、添削等を受けられる「ライティングセンター」を2020年度に設置した。また、学修相談を行うアカデミックアドバイザー制度等を有効に活用して、授業での教育支援を強化する仕組みの継続検討を行った。

### <学生生活支援の充実(寮)>

日本人学生と外国人留学生の混住型国際教育寮における共同生活を通じ、国際理解教育を進めている。2020年度は、西宮聖和キャンパス横に部屋数80室の国際教育寮「有光寮」の建設工事を実施するとともに配備すべき設備を購入した。

### <受入段階での多様性と学力の担保>

「大学入学共通テスト」の改革と併せて、一般入学選抜試験において、受験生がより志願しやすいよう入試制度の名称変更や入学手続き期間の延長、理系学部志願者対象併願減額制度の導入等を実施した。

## (大学院教育)

### <研究者の輩出>

研究者輩出をめざした大学院生の裾野拡大のため、リニューアルさせた大学院案内誌の発行や大学院ウィークを継続実施した。また、将来その90%以上が研究者となる日本学術振興会特別研究員の採用者が博士学位取得後、3年間本学にて「特別任用助教」として雇用する、若手研究者スタートアップ制度を制定した。

### <理系研究室の充実>

理系研究室の充実を図るため、大学院科目の先取り履修制度を開始し、145人が活用した。また、博士課程前期課程修了者が希望する研究開発職へ就職できるよう、引き続き企業との連携を深めている。

### <高度職業人の養成>

企業の人材ニーズと文系の大学院教育とのチューニングプロジェクト立案のため、経済団体と本学との研究プロジェクトを立ち上げた。日本全国の企業を対象に、ニーズ・実態調査を行い、詳細な分析を行っている。

## (総合学園と一貫教育)

### <特長ある一貫教育の創出>

「キリスト教主義に基づく全人教育」を行うことで、自身の周辺に対して、より良い影響を与えることができる人材を輩出することをめざし、短大・各学校それぞれの中期計画(2019-2021)を策定し、推進している。また、文部科学省指定「WWL(ワールド・ワイド・ラーニング)コンソーシアム構築支援事業」拠点校である高等部において、SDGsの概念や17のゴールを学び、平和を構築するために「AI活用」「実社会での学び」「海外との交流」をキーワードとした「グローバル探究」科目を開講している。

## (研究)

### <個別研究の活性化>

URAや産官学コーディネーターによる科研費等外部資金獲得の支援を行うことで、個別研究の活性化に取り組んでいる。また外部資金獲得者への支援充実についても検討していたが、コロナによる学会等出張がなくなるなど、研究実績は相対的に減少せざるを得なかった。

### <研究ブランドの確立>

大学としての研究ブランド確立のために設置した「研究創発センター」を中心に、大学として定めた研究プロジェクトの推進と大型化を図るため、物的・人的資源を集中的に支援強化する「インスティテュート制度」を制定した。

## (産官学連携)

### <KSCでのイノベーション推進>

2021年4月理系新設4学部に伴い、「Camping Campus」の推進を含む包括協定を締結したスノーピークと大学生のキャリア形成サポート『知るカフェ』を展開しているエンリッジョンと本学による産官学連携事業「オリジナルマイボトルによるKSC内ペットボトル削減エコシステム」を開始する。

## (学校経営)

### <新規事業の財源確保>

財務・業務改革本部が中心となって進めている。2022年度までに実現すべき収入増加・支出削減額を定めており、収入増加については学費改定を中心にクリアしたが、支出削減については、具体策

を含めて引き続き検討していく必要がある。また、長期戦略の見直しにより、2022年度までに実現すべき収入増加・支出削減額の再検討を実施した。

#### <学生規模>

魅力的な教育プログラムを新設し、ST比の改善（教員体制の増強）を行うと共に学費改定もセットで行う総合的な施策「学部教育改革施策」を策定した。2019年度は法学部が、2020年度は商学部が採択され、カリキュラム改編に向けた教員採用等準備や、特設ウェブサイトの作成等入試広報活動を進めている。

#### <(職員)人事政策の確立>

行動指針となる Value & Attitude の全学的な検討と策定、経営を担う職員人事制度における職務定義、職員人事制度、研修制度等の検討が進められている。また、海外修士学位取得研修制度を新設し、SGU 事業推進における高度専門職員の充実を図った。

#### <施設建設・設備整備計画>

建て詰まっている西宮上ヶ原キャンパスにおいて、安全な学生の動線確保と教育研究環境の改善をめざし、建設・改修工事を計画通り進めており、2020年度は第2教授研究館の建設計画を開始した。また、SGU 事業に係る西宮上ヶ原の国際教育寮「有光寮」の建設着工や、KSC の再編活性化にあわせ、屋上に天体望遠鏡を備えた新教室棟建設計画を立案した。また、長期戦略の見直しに伴い、総合建設計画（2018-2027）の再検討を開始した。

#### <革新的な情報環境の構築>

2021年夏にカットオーバーする新ポータルシステムの構築に取り組んだ。また、長期戦略の見直しに伴い、情報化計画（2019-2027）の再検討を開始した。

#### <Evidence-based Management の推進>

本将来構想 Kwansei Grand Challenge 2039 の成果を測る KGI・KPI ダッシュボードにおいて、2020年度版として各データの更新を行うとともに、大学の各学部・研究科独自の KPI を制定することで、マネジメントの質向上をめざしている。

#### <二つの PDCA サイクルの統合>

(公財)大学基準協会による第3期認証評価を受審し、「適合」の認定を得た。特に、「中期計画」と「自己点検・評価/学校評価」を1つのPDCAサイクルに統合した本学独自のマネジメントが評価された。また、120を越える全実施計画における指標とその実績値を測り、継続の可否を判断するとともに、認証評価委員会からの指摘事項やポストコロナ検討会議の報告等も加えた「(第1フェーズ)トータルレビュー」を行うことで、2018年に策定した超長期ビジョン・長期戦略の見直しに着手した。

#### <卒業生との連携>

地域貢献の1つを主眼とした「K.G.ライフスクール」をオンライン方式など併用しながら開設している。また、同窓生をステークホルダーの1つとして捉え、さらなる連携強化のために、既存システムから新たなプラットフォームへの構築を継続検討した。

#### <SDGs の推進>

SDGs に取り組む大学として、「関西学院大学 SDGs 宣言」を行うとともに、国連大学 SDG 大学プラットフォームに参加するなどして、ブランド向上に寄与している。SDGs を理解・実践するための科目を NUC・KSC 両キャンパスで2021年4月に開講する準備を進めた。

以上